



7月号

麻布幼稚園だより

港区立麻布幼稚園
園長 佐藤 幸子

真の国際人を育む

園長 佐藤 幸子

暑い日が続いております。子どもたちが植えた夏野菜も大きくなりました。子どもたちは収穫の喜びを味わっています。

さて、麻布幼稚園の令和7年度の重点の、港区の推進する「真の国際人の基礎を育む教育」の取り組みとして、講師の先生に来ていただき、論語の会、礼法教室を行いました。

私は、初めて論語に触れるので、論語の会とはなんとなく聞いたことはありますが、どんなことをするのだろうと思っておりました。論語の先生は、様々なことを子どもたちに問いかけながら、物事の本質の大切なことを教えてくださいました。

今の季節はなんでしょう？という問いに子どもたちから「夏」「春」「雨の季節」「梅雨」と次々に発言がありました。講師の先生からは、日本には四季があり、四季折々の豊かな体験ができ、心も豊かになるというお話しでした。私は、子どもたちの答えを聴きながら、家庭での話題の一端に触れ、子どもたちが家庭生活の中で豊かな会話をしているのだと感じ素敵だと思いました。

礼法教室では、挨拶の仕方を教えていただきました。挨拶は、相手を見て言葉、お辞儀ということをお教いただきました。さらに、季節柄「傘かしげ」という傘をさして歩いているときのすれ違い方も教えていただきました。傘を差した者同士が、すれ違うときに相手を思っの作法です。大人がやって見せた後、子どもたちも実際にやってみました。子どもたちは、すれ違ったときにお互いにつこり笑顔でした。講師の先生にも認めていただき、よいところが伝わっていきしました。すると、その和やかな空気感に包まれ、場が和やかになっていきしました。何気ないことですが、相手を思いや気持ちや所作によって、こんなにも雰囲気が変わるのだとびっくりしました。翌朝は、礼法教室で習ったことを意識して挨拶をする子もいて、すごいなと思いました。こうして、体験したことがこの先につながっていくのですね。

お二人の講師の先生方は、挨拶のことを話題にされておりました。子どもたちも挨拶をしても相手がしてくれなかったらどうかな？と聞かれると「嫌だ」「ダメ」「悲しい」などと言っていました。変化の激しい社会の中で、情報を精査し、他者と力を合わせてよりよいものを生み出す力が求められます。他者と気持ちよい関係性を気付くコミュニケーションは、挨拶からです。真の国際人として言葉も大切ですが、心もしっかり育んでいきたいです。



夏野菜が大きくなって



ジャガイモ掘れたよ



傘かしげ